

特別支援教育部会

研究のまとめ

確かな学力を身につけさせるための指導法の改善 という校内研究テーマにせまるための取り組みとして特別支援教育部として以下に掲げる三つの観点で研究推進に取り組んできた。

学習活動と日常生活に必要な基礎基本事項の習得を一人一人の児童が自立していくために必要な教育的ニーズとして捉えた。

特殊学級に在籍する児童一人一人の実態は多種多様であり、個々の課題に応じた支援を行うためには障害の特製や行動特性、学習上の課題等、近似した実態の児童による学習集団の編制を工夫して指導を行う方がより効果的効率的であると考えた。

個別の実態や現在持つ学習課題とそれに伴う継続的課題等を的確に把握して、個に応じた学習環境作りや課題提示の仕方、自ら意欲的に楽しく学習活動に取り組むことのできる授業作りの工夫をすることにより基礎基本の習得を目指す。

以上三つの観点から特別支援教育部会としての研究テーマを 個別の支援を要する児童一人一人のニーズに応じた指導方法の在り方を探る とした。

さらに特殊学級としてのテーマを 児童の発達段階や課題、障害の特性に応じた学習集団の設定を通し効果的な個別支援の在り方を探る と設定した。

テーマに迫るため、授業実践を通して明らかになったことを以下にまとめとして掲げる。

(1) 学習集団の編制について

弁別(物、形、色)、物の大小と多少、対応など数の入門期にある学習集団、四則計算や形状認識、時間、量、重さ、長さ等において基礎領域にある学習集団、学齢相当の学習が可能な児童(該当学年の G グループで学習)の実態に応じた学習が可能になった。

(2) 授業の構成について

・指導過程をある程度パターン化することで学習への見通しをもたせることができた。

・前時の復習等、学習チェックを毎時間行うことで学習習慣の定着を図ることができた。

・個別、一斉の指導形態の運用を工夫することで、話を聞く態度、発表する力などの育成が図られた。

・数を身近な生活に活かせるような具体的内容を学習過程の中に取り入れたことにより個々の学習意欲が高まり、飽きずに課題に取り組むことができた。

(3)興味関心を喚起する教材教具の工夫

- ・視覚優先の実態に配慮し、視覚的効果の得られる扱いやすい教材を導入した結果、注意力や集中力が育成された。
- ・身近な素材を利用することで生活への一般化が少しずつ図られてきている。

(4)学習環境

教室空間すべてを一定化した学習環境として配慮した。視覚的刺激物の除去、情緒不安定時に落ち着くことのできる場の設置、座席配置の工夫、学習活動に見通しがもてるカードの掲示等配慮した結果、児童個々が安心して学習活動に集中することができた。

(5)教師の連携

学習中に情緒が不安定になった場合の対応の仕方など担任同士で日常的に連携を図りながら共通理解のもとで指導に当たることは大切であり、各教科等における指導内容や到達目標についても同様である。

(6)教育課程の編成

算数科のみならず他教科・領域との関連を図りながら実生活や具体的活動を通して直接的な数量経験を広げ数量的感覚を豊かにすることが大切である。生活に密着したいわゆる生活算数として指導内容を編制していきたい。

<まとめと今後の課題>

在籍児童の実態は多様であり、様々な行動様式をとる。それぞれが将来自立した生活を送るためには算数科に於いてはある程度の数量経験と知識が必要である。

障害を持つ児童は学習過程の中で螺旋状に発達していくと言われる。その課題克服には反覆・繰り返しの指導が不可欠であり、既習の課題を復習することで、その定着が図れるものである。

今年度は学級編制上、算数科と国語科に於いて実態に応じたグループ編制が可能であったため指導効率の良い基礎基本の習得に重点をおいた指導を展開することができ、じどう個々の心身の状態や特性を考慮した個別の支援により諸能力の発達も促すことができた。楽しく充実した学習活動により自ら学ぶ力が伸び、学習への興味関心も増してきたように思われる。今後は学習意欲を高め、学び、習得した事項を実際の生活の中で活かすことができるような指導内容・方法をさらに吟味していきたいと考える。